

# 大阪城

2024  
3/18 (月)  
14435  
号

全港湾  
西成会  
会

247  
6647-  
4947

今日、明日と、日本銀行で会議があり、今まで  
マイナス金利であったものと、17年ぶりに金利を  
ひき上げ、社会は「金利ある世界」に転換すると  
予想せられるはじめている。

大企業業の貸付金などが5%ほど上りてきているので  
日本社会の基準になよ政策金利を上げても良  
との判断だという。このところ、コロナ対策での中小企  
業などへの経済支援が廃止されたりして、中小企業業の  
倒産がふえてきているが、金利の引き上げで、倒産が  
これからふえていくというに見えます。

非正規の労働者の生活は厳しくなり、格差は広がり、  
階級的差別、社会の分断が深くなっていくと感じ  
られます。政治は混乱を深め、混乱を深め、自民党  
などは昨日、大会などをやり、新方針を出したよう  
だが、未来を切り開くものには見えません。

アメリカのトランプ現象、ウクライナ戦争、イスラエル  
パレスチナの戦争、地球全体が転換し、流動をはじ  
めた時代に突入してきている。自然は、しかく、いかに  
春にむかい、暖かくなっていくし、桜も咲き、目や心と  
よろこばせてもくれるのだらう。いろんはと、こころに  
小さな染みや希望をも見つけることもある。ようやく  
春が、自然の転換が見えてくる。

2024年

西成労働福祉センター「センターだより」より

2月求人  
なお低調

2月の地域求人数	対前月増減比	対前年同月増減比
現金(日払い) 13982	14.3%	-2.6%
契約(延べ数) 13651	--1.4%	-11.3%
高齢者清掃 ほか 4559	1.7%	-5.9%

1月は休日が多かったので前月比がプラスだが対前年ではマイナス

# 大手春闘賃上げ33年ぶり高額回答

連合の各労組の賃上げ要求の平均は、30年ぶりに5%を超えた。経団連も「社会的責務」として賃上げに理解を示してきた。高水準の回答が相次ぎ、長年続いた賃金の低迷が転換しそうなことを歓迎したい。

だが油断はできない。厚生労働省によると昨年は大手の春闘で3.6%の賃上げが達成されたにもかかわらず、労働者全体の給与の伸び率は1.2%にとどまった。物価の変動を考慮した実質賃金は減り続けており、国民の生活は厳しくなっている。総務省の調査では家庭に教育費など消費を切り詰める動きがある。

鍵を握るのは中小企業だ。多くの人賃上げの恩恵を受けられるようになるには、大企業の勢いを、従業員数で7割を占める中小に広げる必要がある。交渉はこれから本格化する。3/14中国新聞社説

もあげろ！  
非正規の賃金  
下請け中小